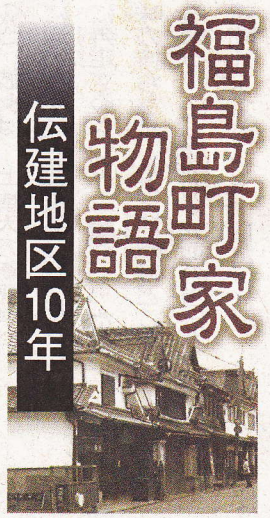
西日本新聞　2012年(平成24年)5月29日　火曜日

福島町家物語

伝建地区10年



■□4□■

若者こいこい婚活支援

出会い

6畳間ほどのスペースに置かれた大小三つの作業台を囲み、20～30代の男性5人と女性10人が肩を寄せ合うように座った。台の上には、製作途中のマグカップや皿が並ぶ。

「うーん。取っ手の近くに色を付けたいんだけど、何色がいいと思う?」。彩色用の筆を手にした男性が、隣で粘土をこねる女性に語りかける。「このままの方がシンプルでいいっちゃないと」。作業に集中したいのか、女性の反応は素っ気ない。やや落胆気味の男性は、少し間をおいて、作りかけのマグカップに再び向き合った。

傍らでは、女性陣が最近買ったスマートフォン(多機能携帯電話)の話題で盛り上がっている。この日は「手は動かさない」と決めているのか、顔なじみが遅れて来店するたびに互いの近況報告に花を咲かせていた。

八女市福島地区の町家カフェ「陶工房絵咲木(えさき)」で毎月第1、3木曜の午後8時から開かれる「婚活陶芸部」。参加費は飲み物も付いて千円。市外からの参加者が多く、男性陣は高校教諭や僧侶、女性は喫茶店員や看護師など職業もさまざまだ。

「一応、陶芸をしてもらう会だから、合コンのようなはじけた雰囲気はありません。女子の割合が高いから、自然と女子会に男子が交じった雰囲気になりますね」と店のオーナー山口久美子さん(54)は語る。

開始から30分後、専門学校に通う女性(22)が山口さんに招き入れられた。この日は数人と言葉を交わす程度だったが、ほのぼのした雰囲気を気に入った様子。好きな男性のタイプなどを聞かれるのでは、と想像していた女性は「思った以上に自由な雰囲気でリラックスできました。今度はじっくり参加してみたい」と笑顔を見せた。

婚活陶芸部の原形は、地元の若者に祭りや地元史の学習会に参加してもらおうと八女市が開催した「青年大学」。福島地区で生まれ育った山口さんも20代後半だった1983～85年に参加、自身を含めて多くのメンバーが「青年大学」を通じて伴侶を見つけた。

山口さんは93年4月、福島地区にギャラリーを開店。地域の生鮮食品やアンティーク雑貨の店に声をかけ、町家の軒先で日曜市を開催するなど町づくりにも取り組んだ。1年半後に火災で店を焼失し、しばらくは町づくりからも離れたが、子育てが一段落した03年5月に現在の店をオープン。常連客から交際相手がいないという悩みを聞き、09年8月に婚活陶芸部を立ち上げた。

昨年12月には、茨城県取手市から突然訪ねてきた30代男性に、町家で暮らしながら介護施設を開きたいとの相談を受け、その後もメールなどでやりとりを続けている。

「頼られるのはうれしいし、これからも勝手な親心で若い人たちを見守り、支援していきたいですね」。〝町家のお母さん〟は、自らも出会いを楽しんでいる。

陶工房絵咲木で開かれる婚活陶芸部。オーナーの山口久美子さん(手前)は愛猫「みかん」と静かに見守る

陶工房絵咲木

粘土1キロ(皿3枚分程度)を使った陶芸体験(3000円)や食事ができる。アメリカンショートヘアの猫「みかん」がいる店としても人気。営業は午前11時～午後8時、月曜定休。八女市本町。同店＝0943(22)2634。